

第2章 山口市観光の基本的方向

観光の形態や観光ニーズが多様化・個性化し、観光サービスに対する評価も高質化していく中で、国内観光地や観光関連産業においては、市場の質的・量的変化に対応した新たな観光商品の開発や観光資源のリニューアルなどによる個性ある魅力的な観光地づくりが求められています。

一方、世界的な景気低迷などから地域活力の低下が懸念されており、活性化に向けた取り組みの中で、地域固有の歴史や文化、自然などの特性を生かして交流人口を呼び起こし、地域の活性化を図るといふ、観光を活用したまちづくりの動きが盛んになってきています。

本市は、大内氏関連遺跡や明治維新をはじめとする豊かな歴史的資源に恵まれ、長い歴史に育まれた個性的な文化や風土が、しっかりと落ち着いたまちの佇まいとともに今に受け継がれています。また、緑豊かな山々、清らかな川、穏やかな瀬戸内の海などの自然環境に恵まれるとともに、行政、教育、文化の中心的拠点地域として、各行政機関や研究機関、大学等の高等教育機関、文化施設が集積した県都としての魅力を有しています。

こうした豊富なまちの資源は、言い換えれば「山口のまちの良さ」、「まちの魅力」であり、後世に受け継ぐべき市民の貴重な財産であるとともに、観光振興を図り、活力ある地域づくりを進めていく上での重要な資源でもあります。

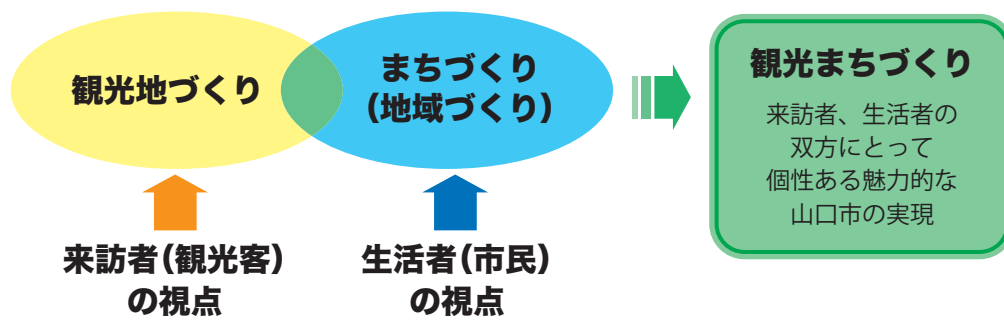
また、山口市の観光客数は、「山口きらら博」が開催された平成13年以降減少傾向にありましたが、道の駅などの観光拠点施設の整備や大規模イベントの開催などにより、年間約390万人の観光客が訪れるまちになりました。しかし、日帰り客が全体の約8割を占めていることから、より消費効果の高い宿泊・滞在型観光を推進していく必要があります。

これからの山口市観光においては、これら本市が持つ固有の歴史、文化、自然、さらには産業、芸術など、地域の多様な資源を活用し、個性ある魅力的な観光地づくりを行うとともに、市民の主体的な参加によって、人と人、文化と文化の交流を進め、地域文化の再発見や新たな魅力の創造を通じて市民生活を豊かにし、活力ある地域づくりにつなげていくことが重要です。

加えて、観光は、宿泊、運輸、飲食・小売、その他サービス業、さらには製造業や農林水産業など、幅広い産業に波及する裾野の広い総合産業として地域の経済に大きな影響を与えます。他の産業への経済波及効果が大きいことから、観光産業事業者だけでなく地域の様々な関係者が参画してその効果を一層高め、地域経済全体の振興を図るとともに、新たな事業や価値観を創造し付加価値を高め、その受益をより多くの市民に還元できる施策を進めていくことが必要です。

こうした課題に対応し、基幹産業として大きく成長する可能性の高い「観光産業」の振興に向けた新たな取り組みにより、観光消費経済効果をさらに高め、地域の特徴を生かした観光まちづくりを進めます。

観光まちづくりのイメージ



I 基本理念

「観光立市・やまぐち」の実現

～観光産業のパワーアップによる持続的な地域発展を求めて～

- ◇ 観光産業の経営基盤の安定を図る。
- ◇ 観光産業が地域の農林水産業、商工業と連携し、付加価値の高い産業構造を形成する。
- ◇ 将来にわたって持続可能な観光まちづくりをめざす。

観光産業は、宿泊、運輸、飲食・小売、その他サービス業等で構成される世界最大の総合産業と言われており、近年、我が国においても、国・地方自治体・経済団体等が重視する姿勢を強めています。

また、多様な産業と密接に関連することから、地域社会に与える影響の裾野は広く、その効果も経済的なものばかりでなく、社会的、文化的、環境的、教育的な効果をも期待でき、結果として「地域づくり」「人づくり」につながり、社会全体にとっても重要かつ不可欠な産業となっています。

このように地域経済において重要な可能性を持つ観光産業をしっかりと振興していくことは、本市の総合計画に掲げる「まちとしての価値」を高めることに有効かつ効果的であり、広域経済・交流圏(注)の経済活動を牽引する観光産業をパワーアップすることで、「**観光立市・やまぐち**」の実現に取り組んでいきます。

注) 広域経済・交流圏とは

山口県中部エリアの経済的に自立・自活できる経済圏であり、都市連携を通じた地域資源の有効活用や経済循環の活性化等、市域を超えた取り組みや経済的な一体性の形成が望まれる人口 60万人～70万人以上の規模を有する圏域です。

II 基本目標

平成 20 年を現状値として、総合計画の目標年度である中間年（平成 24 年）と、最終年（平成 29 年）の目標値を示します。

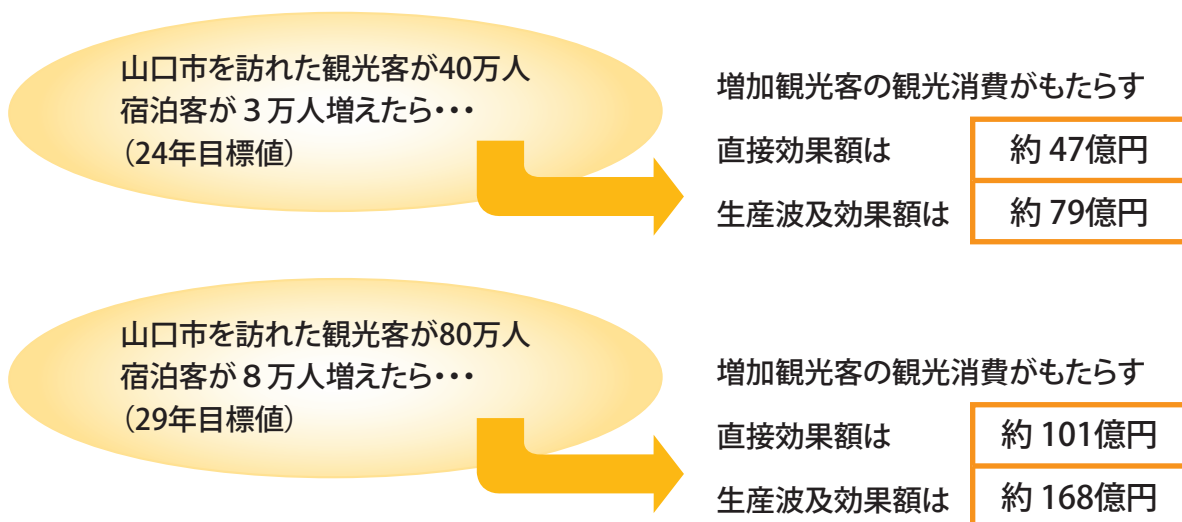
■年間観光客数



■年間宿泊者数



地域経済の波及効果のシミュレーション



(注) 観光消費額である直接効果額・生産波及効果額については、平成 21 年 3 月に報告された「おいでませ 山口 デスティネーションキャンペーン経済効果」の推計方法により算出。

山口市の観光客数は、「山口きらら博」が開催された平成13年以降減少傾向にありましたが、平成16年以降増加傾向にあります。

一方、地域経済に大きな影響を及ぼす宿泊客数については、平成3年をピークに減少してきましたが、平成15年以降はほぼ横ばいの状況です。

今後、本計画の諸施策を展開していくことで、着実な交流人口の増加を図り、平成29年の**観光客数470万人、宿泊客数95万人**をめざします。

また、これまでの観光振興では、地域への入り込み客をいかに増やすかという「量」に重点を置いてきましたが、これに加えて今後の観光振興に欠かせないのが、「量から質」への転換という視点です。観光の「質」とは、その地域を訪れた来訪者にどれだけ満足してもらったかという「顧客満足度」や、来訪者が地域内でどのくらい消費したかという「観光消費額」などに着目し、これらを高めていこうというものです。

このことを踏まえ、本市は交流人口の増加による観光消費として、平成20年の観光客ベースに平成29年に増加した観光客の観光消費がもたらす生産波及効果額を、**約168億円**と見込み、これを目標値として地域経済全体の活性化をめざします。

■山口市観光への満足度



73% (現状値)

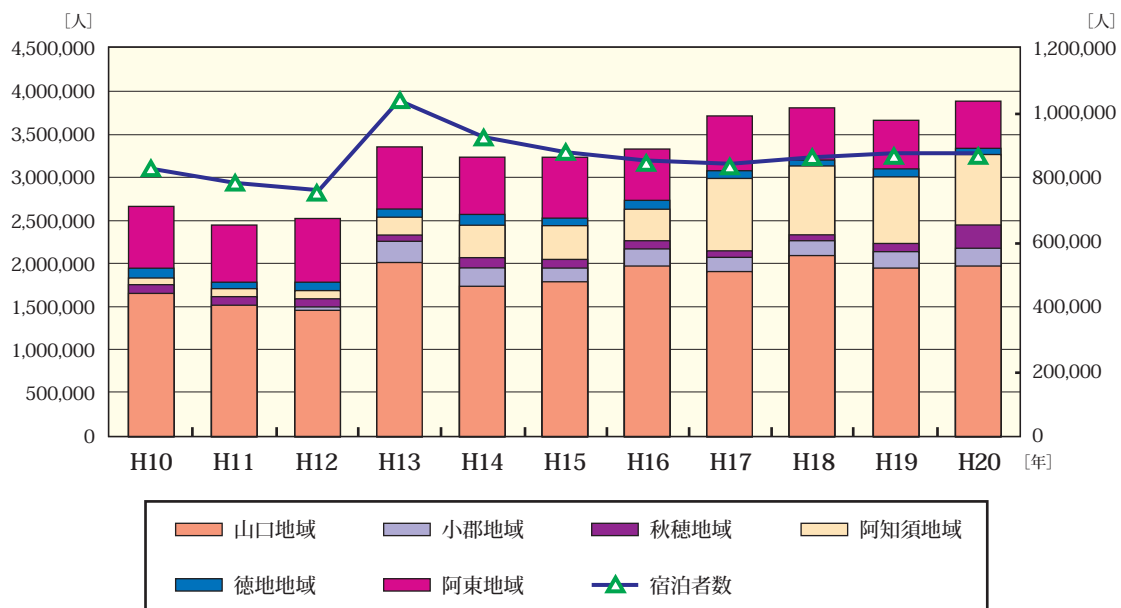


77% (平成24年)



80% (平成29年)

山口市観光客数の推移 (年別)



※参考：各地域の観光客数・宿泊客数

[単位：人]

		平成10年	平成15年	平成20年	備考
山口地域	観光客数	1,646,300	1,773,800	1,987,533	
	宿泊客数	783,700	654,700	646,701	
小郡地域	観光客数	21,413	180,980	189,502	H15 各種ビジネスホテルを新たに算入
	宿泊客数	3,623	171,200	176,093	
秋穂地域	観光客数	91,810	95,949	269,489	H20 道の駅を新たに算入
	宿泊客数	6,774	13,188	10,746	
阿知須地域	観光客数	92,800	397,816	843,167	H13 山口きらら博開催 H17 道の駅がオープン
	宿泊客数	14,390	22,279	17,205	
徳地地域	観光客数	93,887	92,092	53,180	
	宿泊客数	7,412	6,636	6,016	
阿東地域	観光客数	723,255	697,437	560,009	
	宿泊客数	12,111	15,850	11,654	
計	観光客数	2,669,465	3,238,074	3,902,880	
	宿泊客数	828,010	883,853	868,415	

※参考：山口市の観光動向に影響するイベント（予定）

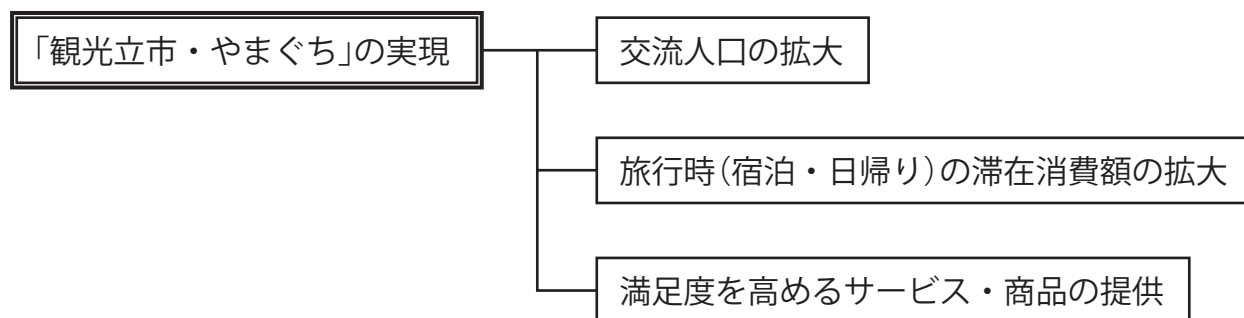
平成 22 年	山口開府 650 年記念事業 湯田温泉復活 300 年記念事業 おいでませ！山口国体リハーサル大会（山口市 5 競技開催） 2010 伝統的工芸品全国まつり（萩市）
平成 23 年	おいでませ！山口国体（山口市 12 競技開催） 全国障害者スポーツ大会（山口市 4 競技開催）
平成 24 年	山口県全県統一観光キャンペーン
平成 25 年	日本ジャンボリー
平成 27 年	世界スカウトジャンボリー

注）世界スカウトジャンボリーとは

世界スカウト機構が主催する、世界 216 の国と地域で行われているボーイスカウト運動における、4 年に一度の世界最大の行事です。世界各国・各地域から、青少年と指導者が集まり、キャンプをしながら世界の仲間と野外活動や交流活動等の体験を共有します。大会日程(平成 27 年 7 月 27 日～8 月 8 日)

Ⅲ 基本方針(施策の方向性)

基本理念に掲げる「**観光立市・やまぐち**」の実現に向けて、次の3つの視点から計画的かつ戦略的に諸施策を推進します。



(1) 交流人口の拡大

人口減少による生産・消費・納税額が縮小する環境下において、本市経済の活性化を維持するため「**交流人口の拡大**」に向けた取り組みを進めます。

(2) 旅行時(宿泊・日帰り)の滞在消費額の拡大

観光及び関連産業との連携による観光メニューの充実・強化を図ることで、「**旅行時(宿泊・日帰り)の滞在消費額の拡大**」に向けた取り組みを進めます。

(3) 満足度を高めるサービス・商品の提供

旅行形態の変化や多様化する旅行者ニーズを把握し、「**満足度を高めるサービス・商品の提供**」に向けた取り組みを進めます。